

■重要安全情報

本書に記載した注意事項は次のように危険の程度や内容に応じて使い分けております。製品をお使いになる前に必ずお読みください。



警告： 誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。



注意： 誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示します。

- ・重傷とは、失明、けが、やけど（高温、低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび、治療に入院・長期の通院を要するものを指します。
- ・傷害とは治療に入院や長期の通院を要さないけが、やけど、感電などを指します。
- ・物的損害とは家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

・絵表示の例



感電注意

△記号は警告や注意を示します。
具体的な警告や注意内容は△の中に絵で示します。



分解禁止

⊘記号は禁止の行為を示します。
具体的な禁止内容は⊘の中に絵で示します。



プラグを抜く

●記号は必ずやることで、強制する行為を示します。
具体的な強制内容は●の中に絵で示します。

重 要 安 全 情 報

4700・4800 シリーズをご使用になる前に以下の警告と注意をよくお読みいただき、理解してください。

警告



定格電圧外禁止

- ・製品に表示した電源電圧以外の電圧で使用しないこと。また、タコ足配線をしないこと。
火災、感電のおそれがあります。



濡れた手禁止

- ・濡れた手で電源プラグを抜き差ししないこと。
感電のおそれがあります。



禁止

- ・電源コードを傷つけたり、破損しないこと。
また、重いものを載せたり、引っばったり、無理に曲げたりすると電源コードを傷め、火災、感電のおそれがあります。



分解禁止

- ・別冊の取扱説明書で外す手順を説明した部位以外は分解したり、触れないこと。
内部には電圧の高い部分があり、感電のおそれがあります。



分解禁止

- ・この機器を改造しないこと。
火災、感電のおそれがあります。



プラグを抜く

- ・万一、煙が出ている、へんな臭いがする、発熱するなどの異常状態のときは、電源プラグをコンセントから抜いて販売店に連絡すること。
そのまま使用すると火災、感電のおそれがあります。



プラグを抜く

- ・万一、異物（金属片、水、液体）が機器の内部に入った場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に連絡すること。
そのまま使用すると火災、感電のおそれがあります。

 注意



使用禁止

- ・ぐらついた台や傾いたところなど不安定な場所に置かないこと。
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



禁止

- ・この機器の上に水の入った容器や金属物を置かないこと。
こぼれたり、中に入った場合、火災、感電の原因となることがあります。



水気、ホコリ禁止

- ・調理台や加湿器のそばなど油煙や湿気があたるような場所やホコリの多い場所に置かないこと。
火災、感電の原因となることがあります。



使用禁止

- ・すべりやすい台の上に置かないこと。
印字の振動でずれ落ちて、けがの原因となることがあります。



プラグを持って抜く

- ・電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜くこと。
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。



プラグを抜く

- ・リボンまたはインクパッドを交換するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行うこと。
そのまま交換するとけがや感電のおそれがあります。

アマノ タイムスタンプをご採用いただきありがとうございます。
4700・4800 シリーズを安全に正しくご使用いただくために、この取扱説明書を、お使いになる前に必ずお読みください。また、お読みになった後は、いつでも使えるように大切に保管してください。

1. ご使用になる前の準備

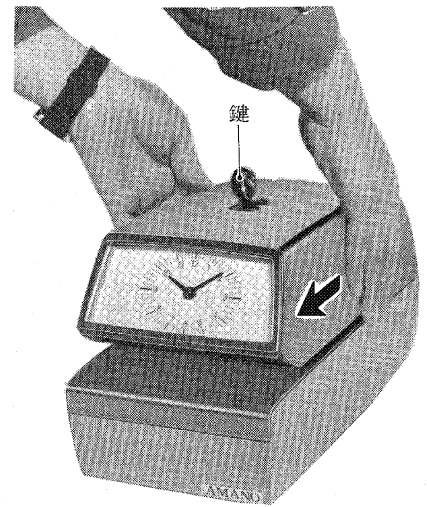
- 輸送中の機械の破損を防止するため本体の内部（ハンマー部）に緩衝材が入っておりますので、ご使用になる前にケースを取り外し時計部・活字部を起こしてリボンの下に取り付けてある緩衝材を取り外してください。（第1・2・7図参照）

2. ケースの取り外し方

- ケースを取り外すには、上ケースの鍵穴に鍵を入れて回し、ケースを両手で持ち少し手前に引出してから上に持ち上げます。（第1図参照）

《ご注意》

- ケースを取り外す時には時計の針に引っ掛けないように注意してください。



第1図

3. 作 動 さ せ る に は



警告



定格電圧外禁止

- ・ 製品に表示した電源電圧以外の電圧で使用しないこと。また、タコ足配線をしないこと。
火災、感電のおそれがあります。



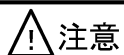
濡れた手禁止

- ・ 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないこと。
感電のおそれがあります。



禁止

- ・ 電源コードを傷つけたり、破損しないこと。
また、重いものを載せたり、引っばったり、無理に曲げたりすると電源コードを傷め、火災、感電のおそれがあります。



注意



プラグを持って抜く

- ・ 電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜くこと。
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

- 電源プラグを電源コンセント（AC100V, 50 または 60Hz）に接続してください。
- 用紙を差し込むと、自動的に印字されます。
- 裏カーボン伝票なら 5 枚程度まで印字できます。

4. 活字の合わせ方

(第2・3図・8ページ第5図参照)

 警告	
 分解禁止	● 本書の取扱説明書で外す手順を説明した部位以外は分解したり、触れないこと。 内部には電圧の高い部分があり、感電のおそれがあります。

- ケースを外し、軸止レバー①を矢印の方向に回し横軸②から離します。次に横軸②を矢印の方向に引き抜き、活字部・時計部を第3図のように起こしてください。

※4700 シリーズ (年・月・日・時分)

- 電源プラグをコンセントに接続させておいて、8ページ第5図の分送りレバー⑤を矢印の方向に押します。第3図の活字部③を矢印の方向に押して標準時間の1分前に合わせてください。分送りレバー⑤をはなすと活字が1分送られ標準時間に合合わせることができます。

※4800 シリーズ $\left\{ \begin{array}{l} 4840 \text{ シリーズ (4桁ナンバー, 年・月・日・時分)} \\ 4850 \text{ シリーズ (5桁ナンバー, 月・日・時分)} \end{array} \right.$

- 4800 シリーズは、4桁または5桁のナンバー活字が、活字部③の左側に並んでいます。

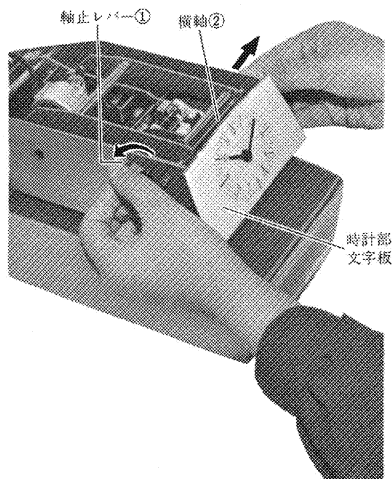
まず最初に、活字部を合わせてから、左側面にあるナンバー活字送りレバー⑭(8ページ第5図参照)を奥の方に押すと、自由にナンバー活字を動かすことができます。同様に矢印の方向に押して合わせてください。

(第3図参照)

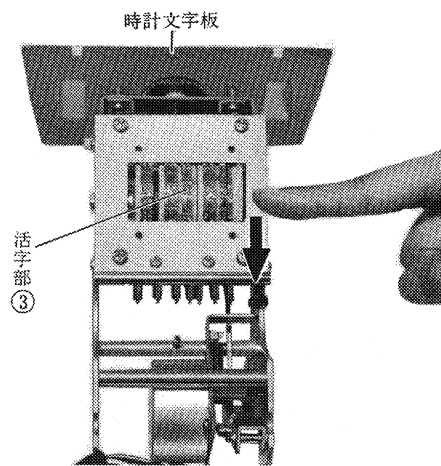
《 ご注意 》

- 活字を合わせる時、1分ごとにカムが1回転して活字車を送り「カチッ」という音がします。

この時、活字部はすぐには動かないので、約10秒待ってから再びおこなうと簡単に合わせる事が出来ます。



第2図



第3図

年・月の活字は自動送りではありません。

第3図のように活字を起こして手動で合わせます。

日の活字は毎月1日に手動で合わせます。

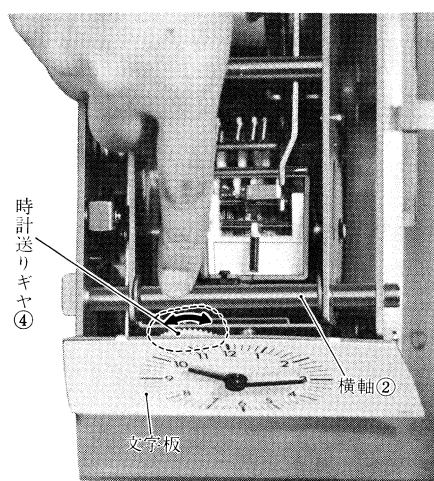
- 年が変わりましたら、年の活字を合わせてください。
- 毎月1日になりましたら、月と日の活字を合わせてください。
合わせませんと、例えば4月1日に印字した場合、3-32 という印字になってしまいます。
- 停電になった場合は、時、分の活字を手動で合わせてください。

5. 時計の針の合わせ方

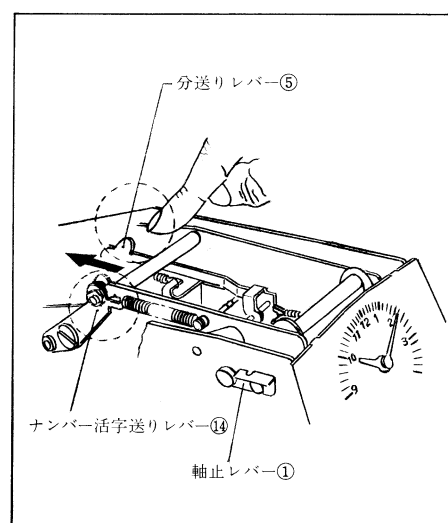
- 第4図の時計送りギヤ④を回し時計の針を合わせてください。
時計送りギヤ④は左右どちらにも回すことができます。
- 活字と針を同時刻に合わせるには、まず最初に活字を合わせてから（4項参照）、活字の時刻まで時計送りギヤ④を「カチッ」という手ごたえがある個所まで回してください。
- 活字と時計を同じに送らせたい時には、第5図の赤く塗られた分送りレバー⑤を矢印の方向に押しはなすと、活字と時計の針を同時に1分送らすことができます。
(第4・5図参照)

《ご注意》

- 活字部を送った直後におこなうようにしてください。



第4図



第5図

6. リボンの取り換え方

(第6・7図参照)



警告



濡れた手禁止

- ・濡れた手で電源プラグを抜き差ししないこと。
感電のおそれがあります。



禁止

- ・電源コードを傷つけたり、破損しないこと。
また、重いものを載せたり、引っばったり、無理に曲げたりすると電源コードを傷め、火災、感電のおそれがあります。



分解禁止

- ・本書の取扱説明書で外す手順を説明した部位以外は分解したり、触れないこと。
内部には電圧の高い部分があり、感電のおそれがあります。



注意



プラグを持って抜く

- ・電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜くこと。
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。



プラグを抜く

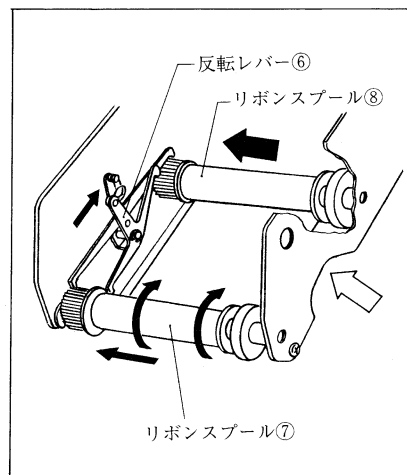
- ・リボンまたはインクパッドを交換するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行うこと。
そのまま交換するとけがや感電のおそれがあります。

●印字が薄くなったり、リボンが切れたり、しわがひどくなった場合には、次のようにして新しいリボンと交換してください。

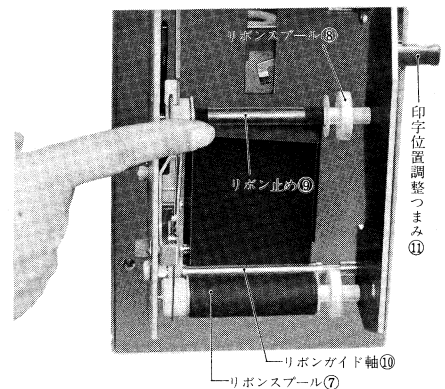
- (1) 電源プラグをコンセントから抜きます。
- (2) リボンスプール⑦⑧の両方を◀の方向に押し、本体からリボンを取り外してください。
- (3) 新しいリボンがリボンガイド軸⑩の下を通るように◻の方向から取り付けてください。
- (4) リボンのたるみがなくなるまで、リボンを巻きとってください。
- (5) 電源プラグをコンセントに差し込みます。

リボンスプールが1つの場合

- (1) 電源プラグをコンセントから抜きます。
- (2) まず最初に関転レバー⑥が本体手前側にあるような場合には、第6図の矢印の方向に押しして転換させてください。
- (3) リボンスプール⑦にリボンを巻き取り、リボンスプール⑧についているリボン止め⑨を取り外して、リボンスプール⑦にリボンを全部巻き取ります。リボンスプール⑦を第6図の矢印の方向に押し本体から取り外してください。
- (4) 新しいリボンスプールを本体に取り付けてからリボンをリボンガイド軸⑩の外側を通しリボンスプール⑧に巻きつけリボン止め⑨で取り付けてください。
- (5) リボンのたるみがなくなるまで、リボンスプールにリボンを巻きとってください。
- (6) 電源プラグをコンセントに差し込みます。



第6図

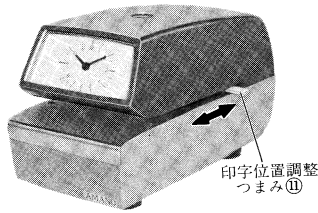


第7図

7. 印 字 位 置 の 調 整

(第8・9・10図参照)

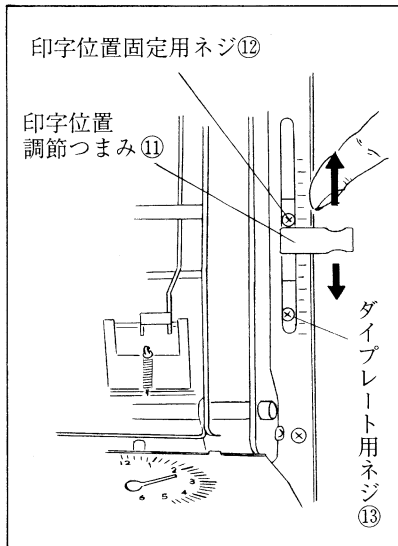
- (1) 印字位置調整つまみ⑪を移動する事により、印字位置を用紙上端より27mm～83mmの範囲で自由に印字することができます。
(ダイプレート付の場合には、用紙上端より4mm～61mmの範囲で印字できます。)
- (2) 印字位置は、すべり板の目盛で行ってください。
- (3) 印字位置を固定したい場合には、第9図のように付属のネジ⑫で固定させてください。
(この場合には、印字位置調節つまみ⑪は取り外してご使用ください。)
- (4) ダイプレート付印字の場合には、ダイプレート用ネジ⑬が取り付けられているかどうかを確認してください。



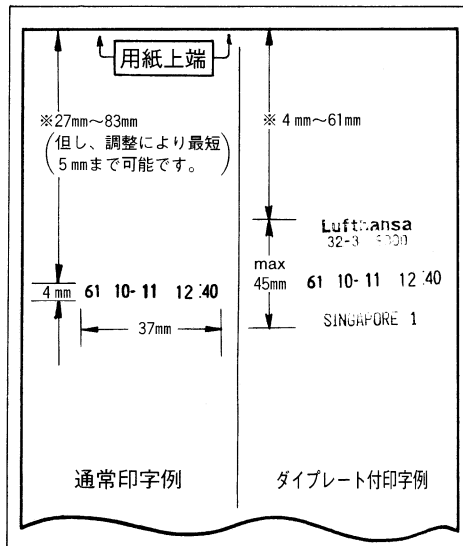
第8図

《ご注意》

- ダイプレートが付かない時の印字位置は、ダイプレート用ネジ⑬を取り外すことにより用紙上端より最短5mmの位置まで調整することも可能です。しかしこの場合には、上部ダイプレート印字用のハンマー台を取り外す必要があるため詳細の調整方法についてはお買上店へお問い合わせください。



第9図



第10図

8. 印 字 の 種 類

使用目的により分位表示は4種類の方式があります。

- 普通時分式…………… 普通の時計と同じく何時何分と印字するもの
- 10進法方式…………… 計算を便利にするために分位を10分割したもの
- 100進法方式（A）…………… 分位を100として60分割したもの
- 100進法方式（B）…………… 分位を100として20分割したもの

種類 \ 分	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	51	52	53	54	55	56	57	58	59
普通時分	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	51	52	53	54	55	56	57	58	59
10進法	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	8	8	8	8	9	9	9	9	9
100進法（A）	00	02	03	05	07	08	10	12	13	15	42	43	45	47	48	50	52	53	55	57	58	85	87	88	90	92	93	95	97	98
100進法（B）	0	0	0	05	05	05	10	10	10	15	40	40	45	45	45	50	50	50	55	55	55	85	85	85	90	90	90	95	95	95

9. 使 用 上 の 注 意

- 時計の針は絶対にさわらないでください。
- 印字が薄くなりましたら新しいリボンと取り換えてください。

機械をいためますのでスタンプインク等は塗らない様にしてください。

- 印字面がつまり、掃除するときには活字と活字の間にゴミが入りやすいですから、特にご注意ください。

◎取り扱い方法について、おわかりにならない点がございましたら、弊社各支店営業所にお問い合わせください。